

For the best future



株主の皆様へ

第102期中間 (2010年4月1日~2010年9月30日)

Thank you 便り

102

THIRD PARTY

NETWORK

CONSULTING

ENGINEERING

 山九株式会社

証券コード : 9065

<http://www.sankyu.co.jp>

## 山九グループをより深く理解していただくために 株主の皆様からのよくあるご質問にお答えいたします。



代表取締役社長

中村 公一

調を見せていますが、一方で急激な円高の影響等により、輸出の増勢が鈍化するなど不透明な状況が続きました。当社グループにおいては、物流分野で港湾・国際物流を中心に回復傾向にあります。機工分野では、引き続きお客様の設備投資に対する慎重な姿勢が継続し、厳しい受注環境が続きました。

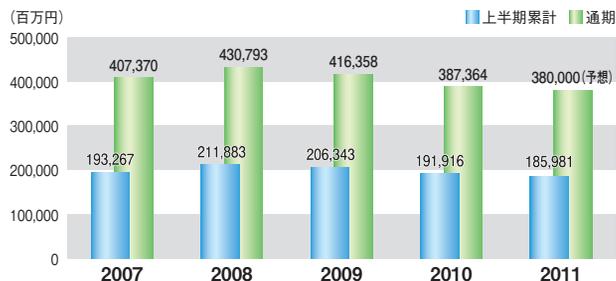
このような事業環境の中、当社はお客様のアウトソーシングニーズに対応すべく、技術力の向上と現場力の強化を推進するなど、一層の競争力強化と生産性・作業品質・安全品質の向上に継続して取り組みました。また、物流センターの新設など業務拡大に向けたネットワークの強化も積極的に進めました。

その結果、当上半期の売上高は1,859億81百万円と前年同期比3.1%の減収となりました。また、利益面では営業利益が96億35百万円と18.9%の減益、経常利益は88億2百万円と22.0%の減益、純利益は42億21百万円と34.6%の減益となりました。

### 当上半期の業績・経営環境について

当上半期(2010年4月1日から2010年9月30日まで)のわが国経済は、中国など新興国の経済成長に牽引される形で輸出が堅調に推移するなど回復基

#### 売上高



#### 経常利益



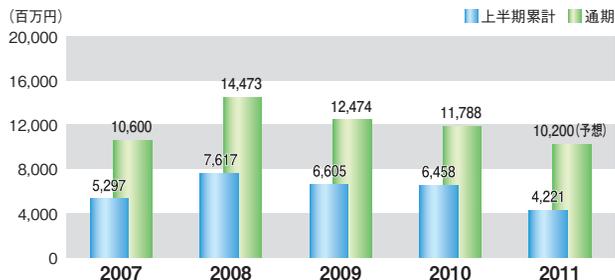
## ？ 事業セグメント別の状況について

物流事業では、コンテナ取扱量がリーマンショック前の水準を上回り、中国・アジアを中心に輸出入作業が大幅に増加しました。また、主要なお客様の生産量回復を受け、工場構内での作業量も順調に推移しました。一方で、国内の一般貨物の取扱では厳しい状況が続きました。このような状況の中、原価率低減などに積極的に取り組んだことなどにより、増収増益を達成しました。

機工事業では、予定された工事案件の着手時期の遅れやお客様の設備投資圧縮もあり、設備工事は軟調に推移しました。保全作業についても、お客様の予算圧縮など厳しい状況が続きましたが、化学向けSDM(大型定期修理工事)など安全操業への需要は高く、堅調に推移しました。しかしながら、設備工事の減少をカバーするには至らず、機工事業は減収減益となりました。

その他事業では、機工事業に連動して機材賃貸は減少したものの、建設工事の完工もあり、増収増益となりました。

### 純利益



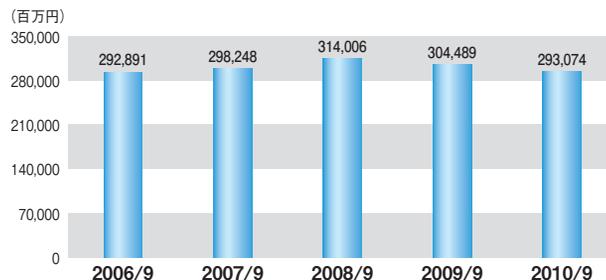
## ？ 通期業績の見通しについて

わが国経済は、引き続き新興国向けの需要は見込まれますが、円高の進行や国内経済の不透明感などの不安要素もあり、楽観視できない状況が続くものと予想されます。また、当社グループの主要なお客様においても、コスト削減、設備投資抑制の流れは今後も続くと考えられ、事業環境の急激な好転は考えにくい状況です。

当社グループでは、引き続きコスト構造の改革による原価率の低減を図り、コスト競争力を高めるとともに、案件を着実に受注へと繋げていきます。また、お客様の海外進出の増加に伴う多様なニーズに対応すべく、国内外ネットワークの整備・強化ならびに世界で活躍できる人財の確保・育成を進めていきます。

以上のような状況を鑑み、2011年3月期の連結売上高は3,800億円、経常利益は192億円、当期純利益は102億円を予想しています。尚、年間配当金につきましては当初予想の通り、1株当たり9円を予定しています。

### 総資産



## CSR

### 中国青海省地震被害への支援

4月14日に発生した中国青海省地震を受けて、被害に遭われた方々への災害義援金として500万円の支援を実施しました。2004年のスマトラ沖地震以来、このような災害が起こったときには、社員から自発的に寄付金を募る活動が起こります。このような動きは、「感謝」という社訓が企業文化の中に息づいている現われであると誇りに感じています。

中国大使館を通じて義援金を実施



4月

5月

6月

7月

8月

## 設備

### 大阪南港地区に物流センター開設



関西地区における3PL事業の獲得、貨物量の拡大にあわせ、大阪南港に「南港中DC」を開設しました。同じ地区に所有する2つの物流センターと共に、関西地区における当社グループの3PLの拠点として、また国内だけでなく、中国・東南アジアを中心とする国際3PLの重要な拠点として、お客様のニーズにあわせた最適な物流サービスの提供を進めていきます。

Key Number・1

20  
周年



日本メンテナンス工業会ホームページ  
URL <http://www.jamsec.jp/>

### 「日本メンテナンス工業会」設立20周年

当社社長の中村公一が会長を務めている「日本メンテナンス工業会」が設立20周年を迎えました。当会は1990年10月に設立され、爾来、メンテナンス技術・技能向上や人材の確保育成などに積極的に取り組んできました。今後も環境の変化に備えながら、会員および産業界との連携を強化し、わが国の発展に寄与できるよう努めます。

## 設備

## 山九メンテナンスセンター 12月に竣工



12月、千葉県市原市に山九メンテナンスセンターが竣工します。当センターは山九グループのプラントメンテナンスの技術を結集した施設となっており、京葉・京浜・鹿島の3大コンビナートを迅速かつタイムリーにサポート可能です。また、プラント設備の診断から補修、改造、完成検査までの一貫したサービスをお客様のメンテナンスニーズに合わせてご提供します。

9月

10月

11月

12月

## 戦略

## 東南アジアエリアの体制強化

今後も大きな経済成長が見込まれる東南アジア・中東地域およびインド地域での経営体制を強化しています。

## 開発

## 「2010 パッケージコンテスト」入賞

3社で共同開発した精密機械輸送用の循環箱が「日本貿易振興機構 (JETRO) 理事長賞」を受賞しました。1人で容易に組立てや梱包などが行え、繰り返し使えるので環境にも優しい商品です。



使用前



梱包後

## Key Number・2

100  
トン

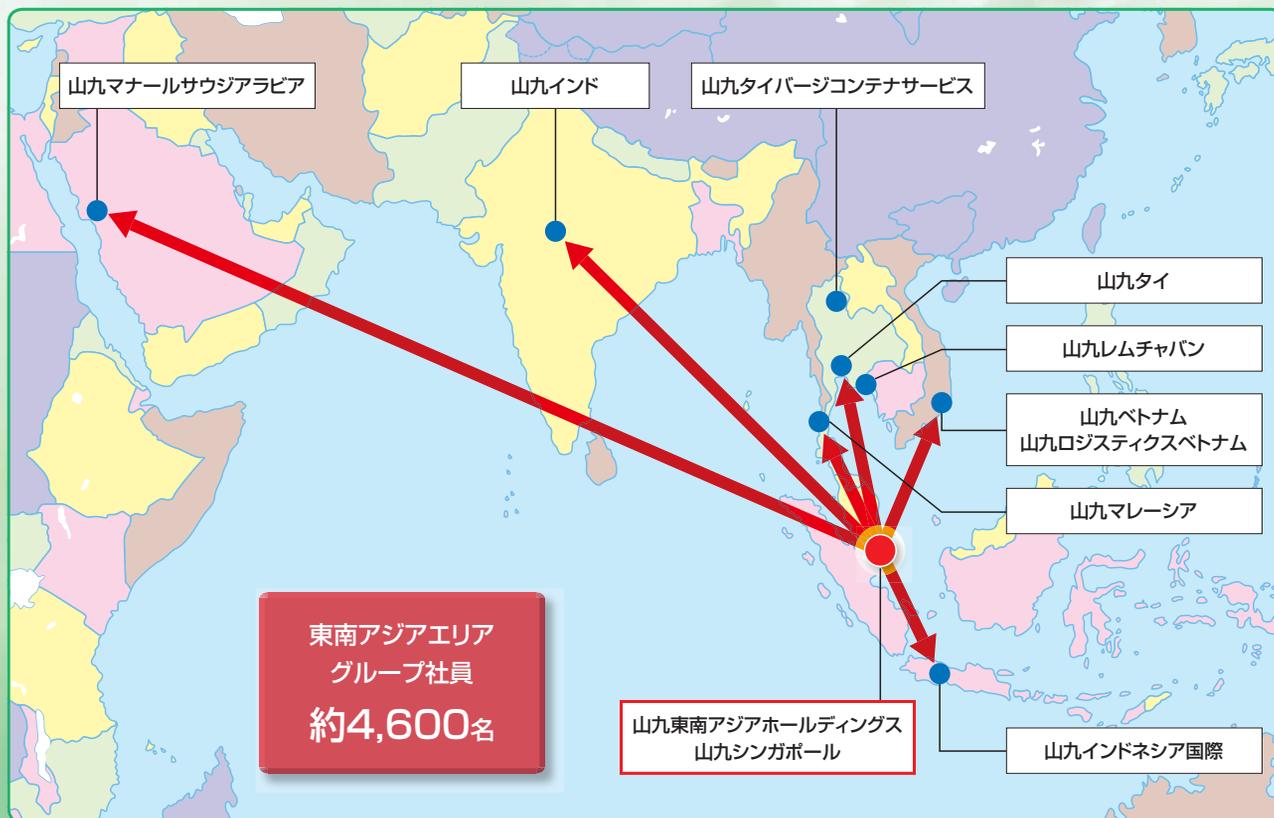
展示会の様子 (スーパーマイクロドーリの実演)

## 「山九 技術・開発展示会2010」を開催

技術開発情報の紹介と社内水平展開の促進を目的とした「山九 技術・開発展示会2010」(社内向け)を開催しました。展示会では、1ユニット当たり100トンもの貨物を狭い場所でも360度自由自在に運ぶことができるスーパーマイクロドーリを実演。他にも作業効率化や安全確保に役立つ多くの開発商品が展示されました。

## グローバル化推進体制の整備

大きなビジネスチャンスの獲得に向け、  
当社では真のグローバル化を実現すべく、  
品質の向上、ネットワークの拡充に取り組んでいます。



お客様の生産拠点などの海外移転が進む中で、当社はサポート体制を強化すべく、以前より海外ネットワークの整備を推進してきました。今後も、更にお客様のグローバル化は進むと予想しており、この動きは海外ネットワークを持つ当社にとって大きなビジネスチャンスであると捉

えています。特に、成長著しい東南アジアエリアでは、経営効率を高めるための施策や拠点ネットワークの拡充を実施し、総合力と機動力でお客様のグローバル展開を支える体制作りを進めており、更なるサービスレベルの向上に努めています。

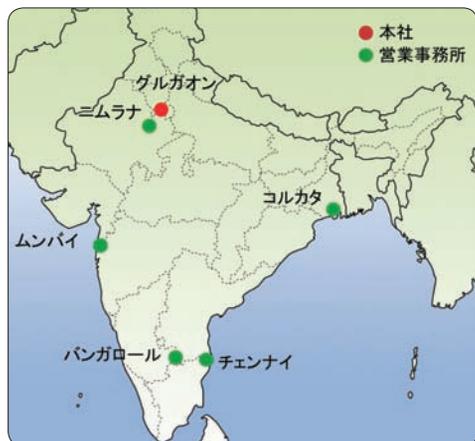
## ■「山九品質」を世界へ届けるために

真の意味でのグローバル化の実現には、いつでも、どこでも「山九品質」をお客様に提供できること、が欠かせない要素となります。安全品質や作業品質に加え、コンプライアンスをも含めた広義の品質管理を徹底し、高品質か

つ一貫したサポート体制でお客様のグローバル化を強力に支援しています。当社では海外ネットワークの整備と共に、このような「山九品質」の維持・向上を継続的に進めることで、真のグローバル化を目指しています。

## 山九東南アジアホールディングスの設立

東南アジアエリアでのネットワークをより盤石にするため、エリア内に拠点を構えるグループ会社の統括管理を目的として、「山九東南アジアホールディングス」を設立しました。現在このエリアでは、10の主要現地法人を中心に事業を展開していますが、これらのグループ会社を包括的に管理することにより、エリア全体を視野に入れた営業展開、要員の流動化など戦略的な事業展開を進めていきます。また、経営の効率化を進め、お客様の当エリアへの進出を強力にサポートしていく体制をより強固にしていきます。

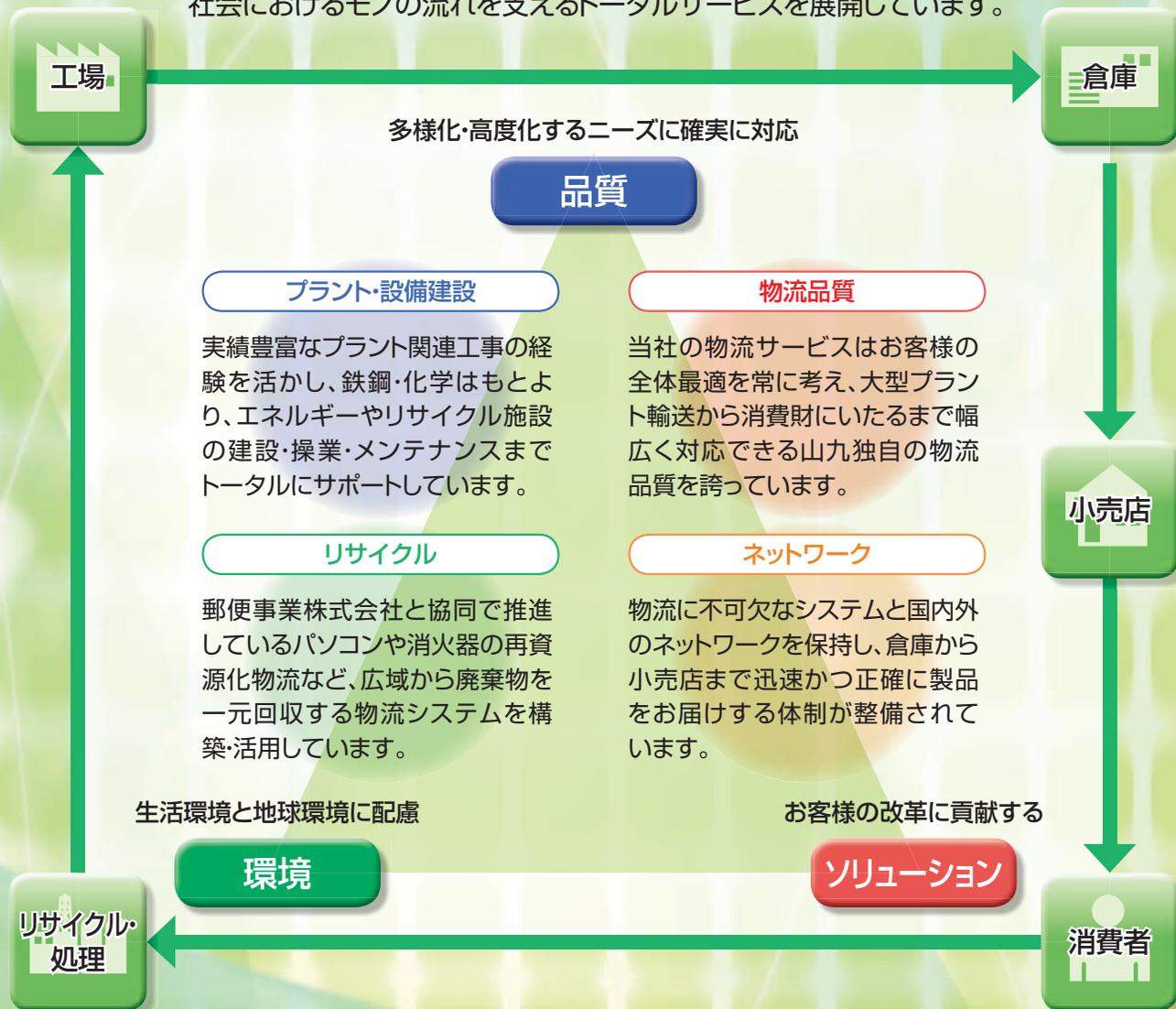


## 山九インド株式会社が営業開始

2010年9月に、山九インド株式会社を設立しました。インドは、日系メーカーをはじめ各国からの投資意欲が旺盛で、近隣諸国との貿易量の拡大も期待されており、グローバルネットワークの重要拠点と位置づけています。山九インドは、日系メーカー進出地である同国北部のグルガオンや、流通の要衝である東南部のチェンナイに拠点を設置し、増加する日系企業の案件とインド国内流通網構築に対応します。更にプラント建設やメンテナンス業務、構内作業の対応も予定しており、物流と機工の一貫体制でビジネス拡大を目指します。

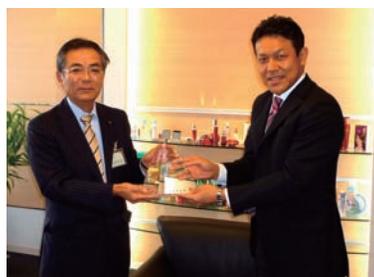
## 新たな市場セグメントの拡大・開拓

当社は、これまで培ってきた技術・技能・ノウハウを活かし、  
社会におけるモノの流れを支えるトータルサービスを展開しています。



ソリューション企業として、トータルでの品質管理により、環境関連・エネルギー分野での深耕拡大、ならびに新たな市場である医薬品・食料関連分野の開拓を進めます。

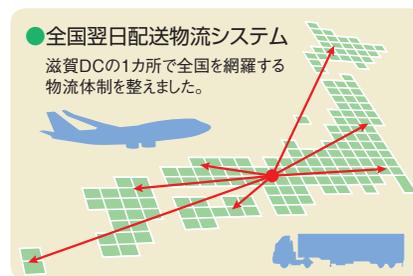
## 品質 P&Gジャパン株式会社様2010年ベストパートナーシップアワード受賞



2010年7月、P&Gジャパン様より「2010年ベストパートナーシップアワード」を授賞しました。国内外1000社を超える同社の取引先の中から、2年連続で、特に貢献度の高い企業として認定されたこととなります。P&Gジャパン様は高いレベルの物流を求められており、コスト削減への貢献、在庫管理精度やカスタマーレーム等における高い品質、同社の戦略に対応した首都圏DC（在庫型センター）の戦略投資などが評価されました。今後、高レベルな物流品質を活かし、日用品に加え、医薬品・食料品関連分野の開拓を進めます。

## ソリューション 全国（離島を除く）一律翌日午前中配送の実現

山九グループは、ネットワーク力・システム力を駆使した物流の効率化や最適化を提案しています。化粧品の3PLでは、路線トラックの他、航空便、宅配送など多様なモードを組み合わせた配送ネットワークを構築し、離島を除き、全国翌日午前の納品を最小コストで実現しています。製品在庫の減少や欠品率の圧縮に貢献しており、全体的な物流の効率化や最適化が、消費者へのサービス向上へとつながっています。新規開拓業界と位置づけている医薬品・食料品関連分野においても、この配送ネットワークの実力が発揮されると考えています。



## 環境 安全性を追求しながら環境保全に貢献



PCB廃棄物専用容器

山九グループは2004年12月より、PCB（ポリ塩化ビフェニル）の国内処理および輸送業務を行っています。PCBは毒性が高く、漏洩防止には細心の注意が必要ですが、重量物・危険物輸送で培った高い作業品質を背景に、国内で作業を進めています。また家庭系廃パソコンや廃消火器の回収システムを展開し、持続可能な資源環境型社会の確立に貢献しています。当社グループが構築してきたエコビジネスでの実績や安全性を、環境関連・エネルギー分野での業務拡大につなげます。



## 財政の状況

前期末：2010年3月31日  
当上半期末：2010年9月30日

### 資産の部

(単位：百万円)

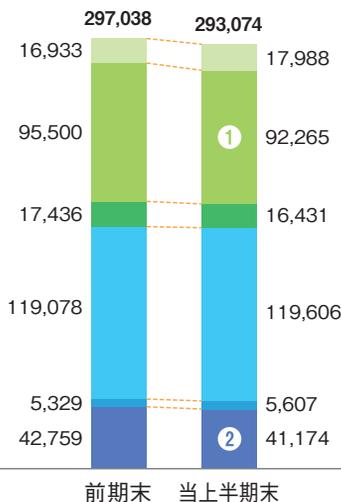
#### POINT-①

受取手形及び売掛金は、回収が進んだことにより減少

#### POINT-②

投資その他の資産は、時価評価による投資有価証券の減少などにより減少

- 現金及び預金
- 受取手形及び売掛金
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 無形固定資産
- 投資その他の資産



### 負債・純資産の部

(単位：百万円)

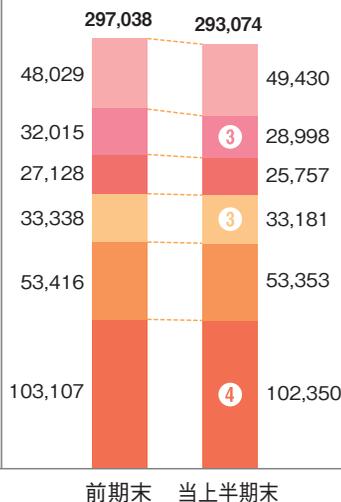
#### POINT-③

短期借入金及び長期借入金が減少し、財務体質が改善

#### POINT-④

為替差損と資産評価損で減少するも、1千億円台をキープ

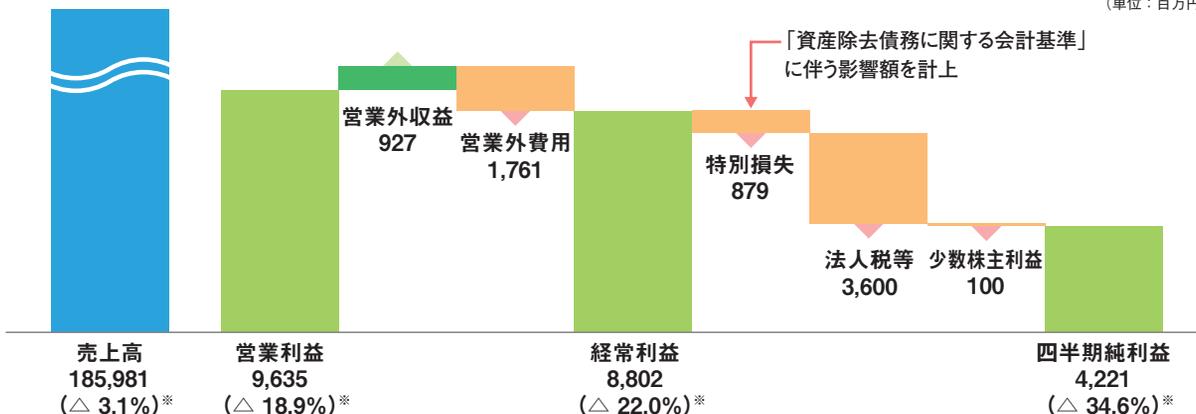
- 支払手形及び買掛金
- 短期借入金
- その他の流動負債
- 長期借入金
- その他の固定負債
- 純資産



## 損益の状況

当上半期：2010年4月1日～2010年9月30日  
※( )内は前年同期比

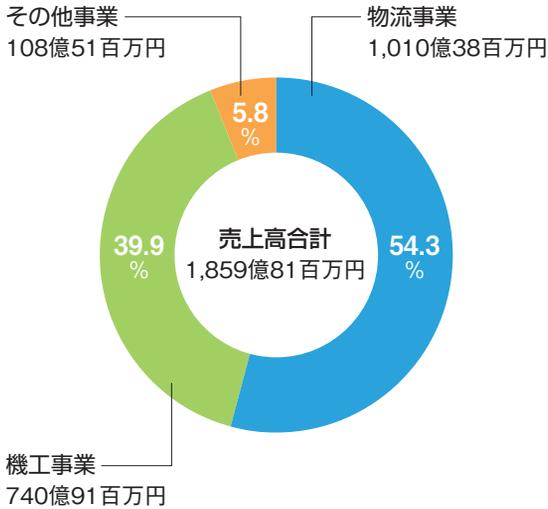
(単位：百万円)



(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## セグメント別売上高

当上半期：2010年4月1日～2010年9月30日

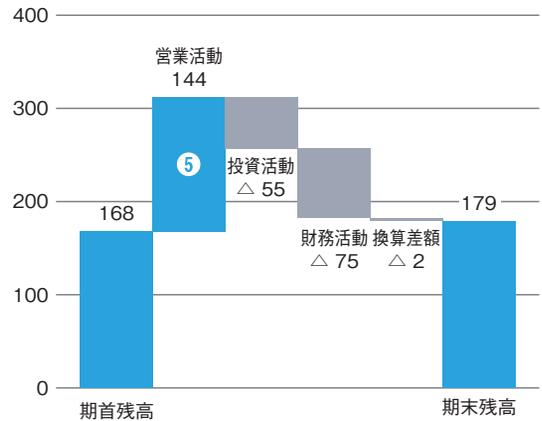


(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フローの状況

当上半期：2010年4月1日～2010年9月30日

(単位：億円)



### POINT・⑤

支払債務の減少や売上債権流動化の拡大などにより、営業キャッシュ・フローは前年同期に比べ大幅に増加

(注)金額については、一億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## お知らせ

より山九グループを知っていただくために、「山九グループ早分かり」コンテンツを追加しました。

山九のホームページのトップに「山九グループ早分かり」が追加されました。これは当社グループをより深く知っていただくためのコンテンツで、グループの方向性やビジョン、設立から90年を超える当社の歴史、更には直近の情報が掲載されている「Thank you 便り」などの情報を一つにまとめています。

山九グループ早わかり

- ミッション「企業理念」
- ビジョン「長期ビジョン」
- 日経CNBC「ベストパートナーを目指して」
- 先駆者たちの大地「世界に山九を」
- 山九の歴史「90年の歩み」
- 株主の皆様へ「Thank You便り 101」

URL <http://www.sankyu.co.jp/>

## コーポレートデータ (2010年9月30日現在)

会社名	山九株式会社
住所	〒104-0054 東京都中央区勝どき六丁目5番23号 Tel.(03)3536-3939
資本金	28,619百万円
事業所	国内支店 38、海外駐在員事務所 3
関係会社	国内44、海外現地法人 39
従業員数	9,808名
お問合せ先	総務・CSR部 Tel.(03)3536-3939

## 株式データ (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,000,000,000株
発行済株式総数	326,078,030株
株主数	19,500名
大株主	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	31,181	9.56
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	26,642	8.17
新日本製鐵株式会社	14,400	4.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	10,362	3.17
財団法人ニビキ育英会	9,800	3.00
株式会社みずほコーポレート銀行	8,310	2.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	6,304	1.93
明治安田生命保険相互会社	6,000	1.84
ザチエスマンハッタンバンク エヌイロンドン エスエルオムニバス アカウト	5,753	1.76
東京海上日動火災保険株式会社	5,251	1.61
合計	124,003	38.02

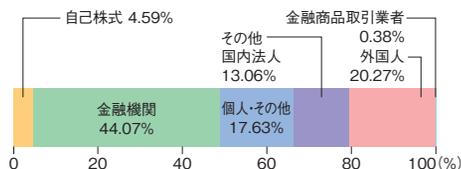
## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-7111(通話料無料)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.sankyu.co.jp/koukoku/">http://www.sankyu.co.jp/koukoku/</a> (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 所有株式数別構成比率



## 1株当たり配当金 / 配当性向

